

メンドーサ旅行記

ジェトロ・サンティアゴ事務所

佐藤 輝美

3月のセマナサンタの3連休（3月25日～3月27日）にアルゼンチン・メンドーサに旅行に行ってきました。メンバーはサンティアゴの若手駐在員とそこご家族の総勢10名！サンティアゴ在住の日本人でメンドーサに旅行に行かれたことがある方はおそらくたくさんいらっしゃるかと思いますので、大人数のグループ旅行ならではのポイントを含めながら旅行記を書いていきます。

○事前準備

10人ともなると、さすがに行き当たりばったりの旅行は危険ということで、以下の通り役割分担をしました。

・ホテル調査、予約

今回は夕食を町中で取ることを考慮して、町の中心部のホテルにしました。徒歩圏内に独立広場や教会があり、街歩きも楽しめました。

・ワイナリー、レストラン調査、予約

メンドーサのワイナリー調査は以下のサイトが便利です。

The Vines of Mendoza (<http://www.vinesofmendoza.com/>)

予約は各ワイナリーのHPやメールでできたりしますが、返信がないこともあるので、電話での確認もした方がベターです。

・車両保険付帯、運転

チリから車でアルゼンチンを旅行する際には、通常の車両保険とは別に国際保険に入る必要があります。各保険会社のHPでWEBから申し込みができますが、シャーシ番号等の入力が必要なので、購入の際にはPadrón(Certificado de Inscirpción)を手元に用意しておくといいです。

・ルート確認

アルゼンチンはチリよりも標識等が少なく道が分かりづらいので、事前にGoogleマップを使って右左折するポイント、目印となる場所等を把握しておいた方がベターです。

・旅のしおり作成

○出発～道中

今回は車3台での旅行となりました。朝5時頃それぞれに出発し、5時半頃に途中のCOPECで待ち合

わせという予定でしたが、そう順調には行かず。結局全員が COPEC に揃ったのは6時過ぎと始めからスケジュールが押す展開でしたが、その後はわりとスムーズに進み、無事国境に到着。国境での待ち時間も2時間程だったので、セマナサンタの大渋滞は恐れていたほどではありませんでした。ちなみにメルコスール加盟国はカルネで出入国ができるというケースもありますが、パスポートは持っていきましょう。

アルゼンチン入国後も特段渋滞はなく、なんとか 13 時頃最初の目的地のワイナリーに到着しました。

○訪問地

<ワイナリー>

①Casarena

壁面の色が地面と同じ色ということで「砂の家」の意の名前が付けられたワイナリーで、ペルドリエル地区に位置しています。2007年に元々州の文化財だったワイナリーを再構築し、現在では最新技術と伝統的な製法を組み合わせた製造方法でワイン生産を行っているワイナリーです。今回はランチのみの利用で、6杯のワインそれぞれに合う料理が味わえるコースを予約。料理はかなり上品な量と味ですが、ワインはスパークリング、白、ロゼ、赤と存分に楽しむことができました。写真はスモークサーモン、ビーツ、いちごのタルタル。スモークサーモンの塩気とビーツといちごの甘味が相まって一緒に出てきたロゼワイン（505 ロゼ）と相性完璧でした！



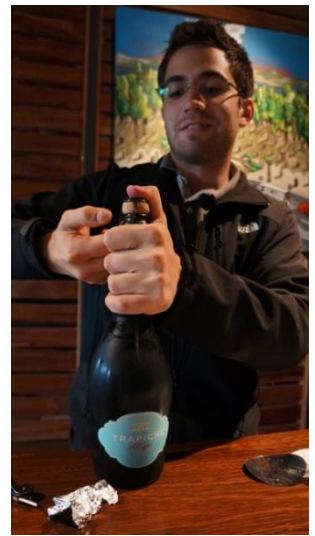
②Mevi

創業者の Rolando Meninato 氏と Oscar Vignart 氏の名字の頭文字2字ずつを取り、Mevi と名付けられたワイナリーです。小ぢんまりとしたワイナリーながら、ツアーの説明が丁寧で、糖度計を使ってブドウの糖度見せてくれたり、ラベリングを体験させてくれたりと盛りだくさんの内容でした。実っているブドウもこれでもかというくらい試食させてくれました。試飲では、Malbec Reserva、Cabernet Reserva、Syrah Reserva をいただきました。特に Syrah Reserva はほんのりとココナッツやベリー系の果実味がして、飲みやすく、おいしくいただきました。



③Trapiche

1883年創業の Trapiche 社は、アルゼンチンを代表する名門ワイナリーで、グループ全体の輸出量ではアルゼンチン No.1、世界 20 カ国以上で親しまれています。Mevi と同じくマイポ地区に位置しており、ぶどう一つ一つを手摘みして造られるワインのクオリティの高さは世界的に有名です。ツアーでは計 3 杯のワインの試飲の予定だったのですが、余ったらお代わりができるというサービスの良さが印象的でした。特においしかったのはスパークリングワイン(Trapiche Allegro)で、洋梨やメロンなどの果実味が爽やかで、食前酒としてはもってこいの一杯でした！



<レストラン>

①1884 restaurante

古城を思い浮かばせる扉の先にさらに広がる重厚な造りの空間。案内された個室はハリー・ポッターの映画にでも出てきそうなダイニングルームで、最初はなんだか恐縮してしまいました。料理は前菜をシェアし、個々人メイン料理(ステーキ)を頼みましたが、全員大満足のボリュームと味でした。私が注文したのは写真の牛ハラミのステーキ。出てきたときはボリュームに驚きましたが、脂がさっぱりとしていてかなりおいしかったです。



②Ocho Cepas

こちらでも肉とワインを堪能しましたが、メインに負けず劣らずおいしかったのはラビオリ。クリームソースがラビオリに完全にマッチしていて、1つ1つのラビオリが結構な大きさなのですが、ぺろりと食べられてしまうおいしさでした。



○自転車

メンドーサの東部にあるマイブ地区では、自転車に乗ってワイナリー巡りができます。今回は **Mevi** と **Trapiche** のワイナリーに自転車で行ってみました。今回自転車をレンタルしたのは **Mr. Hugo** というお店。1人用の自転車だけでなく、2人用の自転車もレンタルできるので、複数人で行く場合はぜひ両方レンタルしてみてはいかがでしょうか。なお、マイブ地区は広大な土地にワイナリーが点々と存在しているので、相当な距離自転車で走ることが覚悟しておく必要があります。(我々も今回合計で **20km** 以上は走りました。) さらに自転車の調整具合が様々で、ものによっては相当漕ぎづらかったり、途中で故障してしまう自転車もあったりしたので要注意です！(故障自転車に関してはワイナリーから自転車屋に電話をかけてもらい、車で回収しに来てもらったので、来た道を自転車を引きずりながら帰るという大変な事態には陥らずに済みましたが…)



○まとめ

10名という大人数のグループ旅行だったため、心配な面もありましたが、事前の準備のおかげで特段大きなトラブルなく旅行を終えることができました。メンドーサは肉とワインが存分に味わえる美食の町で、サイクリングも楽しめます。車では6時間以上かかっていますが、飛行機であれば1時間程度で行ける町です。ぜひ次のお休みの行先候補にされてはいかがでしょうか。

※この記事は会報 242 号 (2016 年 5 月 発刊) に掲載されました。